

事業名	みんなでつながる子育てほっとサポート事業(新規)	事業期間	H28～30 年度
地域健康福祉計画との関係	目標2 仲間づくりができる交流の場づくり 目標3 いつでも気軽に相談できる仕組みづくり		
<p>【事業概要】</p> <p>地域で安心して子育てができるよう、母子保健や育児に関し、妊娠期から子育て期にわたる切れ目ない支援をNPO 法人など、地域の関係機関と連携・協働して取り組みを進め、保健師や助産師などの専門職に相談できる場や育児不安を相談できる場の提供、子育て講座の開催、子育て情報誌の発行をし、子育て支援環境の充実を図る。</p> <p>内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ○妊婦カフェ・産婦カフェの開催 保健師や助産師など専門職による相談やミニ講座を実施する。 対象：妊娠中のご夫婦、生後6か月未満の乳児をもつ保護者 それぞれ12回開催予定 ○子育て講座の開催 月齢に合わせた成長と関わり方を学び、親子遊び体験を通じた絆づくりを促し、安心して子育てに取り組めるよう支援する。 対象：乳児コース（乳児期後半）定員20組で12回開催予定 幼児コース（1歳から1歳6か月未満の幼児）定員20組で12回開催予定 ○母親支援ほっと・サポート「ママのほっとタイム」の実施 育児不安を抱える母親同士が自分の体験や気持ちを語り合う場を提供し、母親の心理的安定・育児不安からの回復を図る。 対象：育児不安の強い母親 12回開催予定 ○子育て情報誌の発行 育児に役立つ情報などを掲載した情報誌を年1回発行し、区役所、地域保健福祉センター、子育て支援センター等に設置する。 <p>【事業目的・経緯】</p> <p>平成25年度から27年度の3年間、特色ある区づくり事業として「パパ・ママ子育て支援事業」を行った。「にちよう育児相談」「ふれあいスキンシップ」「妊婦と先輩ママとの情報交換会」を実施し、父親の育児参加を促し、子育ての悩みについて相談する場を提供するとともに、参加者同士の交流を深め、育児不安の軽減や孤立化の防止を図った。</p> <p>全事業とも、年々参加者は増加し、父親の参加も増えている。「ふれあいスキンシップあそぼ～」のアンケート結果では赤ちゃんとの遊び方や情報交換に役立ったとの声が聞かれ、「妊婦と先輩ママとの情報交換会」とともに満足度は高かった。さらに、近年子育て支援センターの整備や民間の子育て支援の場等が増えてきていることから、当初の目的は達成できたと評価し、今年度をもって、当事業を終了する。</p> <p>今後は、妊娠期から乳児期の支援を強化し、保健師・助産師などの専門職に気軽に相談ができ仲間づくりができる場、及び子どもの成長発達や関わり方を学ぶ講座を、NPO 法人等地域の関係機関と連携・協働して行い、妊娠期から子育て期にわたる切れ目ない支援体制の構築をめざし、新たな事業展開をしていく。</p> <p>【期待される成果】</p> <p>妊娠期から子育て期にわたるまでの母子保健や育児に関する相談に対し、切れ目ない支援を行い、関係機関とのネットワークを通じ、地域において妊産婦等への支援を整備することにより、地域で安心して子育てができる環境につなげることができる。</p>			

中央区特色ある区づくり事業

事業名	超高齢地域 ICT 利活用モデル事業	事業期間	H27～29 年度
地域健康福祉計画との関係	目標1 支え合い、助け合う地域づくり 目標3 いつでも気軽に相談できる仕組みづくり		
<p>【事業概要】 モデル地区において、ICT を活用して地域のリーダーやボランティアスタッフなどの連絡や地域の支え合いに係る情報の管理などを行い、情報伝達の迅速化を図る。ICT の活用により、地域の支え合いの仕組みづくりに効果があることを地域との協働で調査・研究し、課題解決を図る。 区民を対象とした「まちづくりシンポジウム」を中央区社協と共催で開催し、地域課題の解決に取り組む。</p> <p>【事業目的・経緯】 区づくり事業を地域で実施してきた中での課題は、事務的な作業に手間がかかり、業務を行う事務局への負担が非常に大きいことである。地域活動の担い手の高齢化や不足も課題となっており、地域主体の効果的な取り組みを継続していくためには、現在手作業で行っている書類作成や送付作業などの事務的な作業を ICT を活用することにより、作業の効率化を図る必要がある。</p> <p>【H27 実施内容】 モデル地区（山潟地区） 支え合いの仕組みにどのように ICT を利用できるかについて、まずは実状を把握するため、ICT の活用実態や山潟地区で取り組んでいる生活支援のしくみ「お互いさまネットワーク」の課題について、スタッフ、ボランティア及び無作為に抽出した 50 歳から 74 歳の地域の方にアンケートをとった。「お互いさまネットワーク」利用者や 75 歳以上の方には、周囲との交流の実態についても民生委員から聞き取り調査をしていただいた。また他都市の取り組み事例も調査した。</p> <p>【H27 成果と課題】 アンケートや聞き取りにより現状の把握ができた。また他都市の取り組み事例も踏まえ、ICT を利活用するには、まず機運の醸成と、人的なサポート体制が必要であるとの結論を得た。</p> <p>【H28 実施予定】 地域の専門学生を講師補助のボランティアとして活用し、世代間交流を図りながら、ICT に触れる機会をつくる。</p> <p>【期待される成果】 ICT に触れる機会を複数回作ることで、ICT 機器に慣れ、実際に事務作業の一部に ICT を活用し、作業の効率化を図る。</p>			